

日本地震工学会「避難の研究委員会」 ワークショップ2014 開催案内

主催：(社)日本地震工学会「津波等の突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会」

日時：2014年3月10日 13時30分～17時30分

場所：工学院大学新宿キャンパス 20階 第6会議室

(〒163-8677 東京都新宿区西新宿1丁目24番2号)

アクセスマップ：<http://www.kogakuin.ac.jp/facilities/campus/Shinjuku/access.html>

対象者：避難の課題に関心のある一般市民の方、防災行政関係者、技術者、研究者

会費：会員 無料 非会員 1,000円(資料代)

参加方法：会場60名まで

Webによる参加(Google Hangout利用)も可とします。10名まで先着順です。

3月6日までに右記までメールでお申し込みください。 仲村成貴 宛 masa@civil.cst.nihon-u.ac.jp

開催趣旨

東日本大震災より3年がたとうとしている。我々は、あの災害で住民の適切な避難が減災の要となることを学んだ。そして、首都圏でも膨大な帰宅難民を経験し、火災や浸水との複合災害が懸念される大都市直下地震でも適切な避難が減災のより重要な課題となることを識らされた。

日本地震工学会「津波等の突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会（略称：避難の研究委員会）」は1年半前に設置され、津波からの避難、大都市地震災害における避難、避難のシミュレーション技術、海外の大規模避難災害事例について調査研究活動を行っている。

このワークショップでは、講師をお招きして関連分野の先端的研究をご紹介いただくと共に、研究委員会のこれまでの成果を参加者にご報告し、今後の活動の糧となるよう議論いただく。

プログラム

13:30 開会と趣旨説明

13:40 特別講演 「災害時・平常時の人の動線の分析」

：関本義秀（東京大学生産技術研究所,空間情報科学研究センター兼務）

14:50 首都直下地震における避難の課題 ；久田嘉章

15:10 中規模ターミナル駅周辺での避難の課題の事例分析 ；大原美保、山下倫央

15:30 ニューヨーク・ハリケーンによる高潮災害と減災・避難対策 ；三上貴仁

15:50 避難シミュレーションにおける品質保証の現状と将来展望 ；末松孝司

16:10 南海トラフ地震対策に迫られているある自治体の避難の課題 ；佐藤誠一

16:30 津波災害における要援護者の避難時間と協働による対応策に向けて

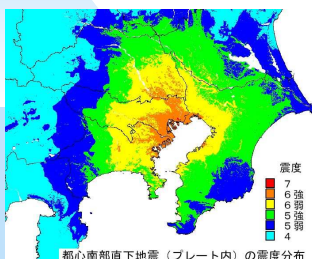
：三浦浩史、小山真紀、安東直紀、山田圭二郎

16:50 津波犠牲者の調査から得た津波避難の課題 ；三上卓

17:10 総合討論

17:30 まとめ

17:45 交流会



交流会を工学院大学ファカルティクラブにて立食形式で開催します。
会費3,000円、前日までに上記の仲村成貴までお申し込みください。

プログラム

- 13:30 開会と趣旨説明
：後藤洋三（東京大学）
- 13:40 特別講演
災害時・平常時の人の動線の分析
：関本義秀（東京大学）
- 14:40 休憩
- 14:50 研究発表 司会 柳原純夫（奥村組）
1. 首都直下地震における避難の課題
：久田嘉章（工学院大学）
 2. 中規模ターミナル駅周辺での避難の課題の事例分析
：大原美保（東京大学）、山下倫央（産業技術総合研究所）
 3. ニューヨーク・ハリケーンによる高潮災害と減災・避難対策
：三上貴仁（早稲田大学）
 4. 避難シミュレーションにおける品質保証の現状と将来展望
：末松孝司（東京工業大学）
 5. 南海トラフ地震対策に迫られているある自治体の避難の課題
：佐藤誠一（日本工営）
 6. 津波災害における要援護者の避難時間と協働による対応策に向けて
：三浦 浩史（社会福祉法人白寿会）、小山 真紀（京都大学）、安東 直紀（京都大学）、山田 圭二郎（京都大学）
 7. 津波犠牲者の調査から得た津波避難の課題
：三上 卓（東濃地震科学研究所）
- 17:10 総合討論
- 17:30 まとめ
：久田嘉章（工学院大学）
- 17:45 交流会